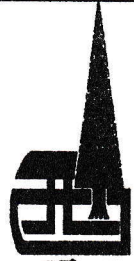


# 西新井町自治会

## だより

平成十二年十二月

自治会広報部



【地震・雷・火事・親父】昔から恐ろしい代名詞でした。今日でも記憶に新しい大都会神戸を襲った地震、今でも避難が続く三宅島雄山の噴火など自然災害が続いております。何時でも防災活動が活かされる、それは訓練以外ありません。幸い町内にも自主防災会が誕生して、活発な活動を展開しております。今月号は、防災活動特集にしました。ご意見等ありましたら一紙下さい。編集後記に代えて、広報部長 小林秀雄

### 須永茂雄さん（元副会長兼会計）を偲んで

自治会々長 須永 昭

自治会活動の中で苦勞を共にした須永茂雄さんが七くなられて、早いのもう一ヶ月余りが経過しました。一日千秋の思いで、私たちの前に元氣な姿で復帰されることを、願っております。私たちに元氣な姿で復帰されることを、願っております。重要な責務を担い、クリンリーダーとしても町内の美化清掃に精励されました。生来の真面目さと温厚な性格は誰からも信頼され、町内の親睦と発展に多大な貢献をされました。

又、他に石上神社総代としても、数々の業績を上げられた事は言う迄もありません。この年代でワープロにも精通され、優れた企画と数々の討議資料の作成、正確な結果報告の作成等、現在の自治会運営の基礎を作ったと言っても過言ではありません。自治会で今進めている区画整理問題にも、深い理解を示され推進委員の顧問にも快く就任して頂きました。

町内の更なる発展に情熱を注がれていた茂雄さんには、これからの諸活動に指導的役割を果たして頂きたいと、考えていましたが返す返すも残念でなりません。私は、茂雄さんに人生の先輩として多くの事を学びました。身を以て示された誠実・努力そして優しさは茂雄さんに最も相応しい言葉だと思えます。

私達は、此の茂雄さんの生前の意志を受け継ぎ、これからの自治会運営に反映させると共に、明るく住み良い街づくりに励むつもりです。本当にありがとうございます。

### 年度後半活動について

自治会副会長 成田 守

今年も余すところ少なくなつてまいりました。町内の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

自治会前半の活動は、皆様のご協力を得て順調に経過することが出来ました。紙上をお借りして厚く御礼申し上げます。後半の活動は、現在進行中を含めて次の項目が主であります。大枠を報告し皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

一、十一月中旬に実施した、区画整理事業に対してのアンケート結果に対して、最終判断とそ

の対応を進めてまいります。二、自主防災会の夜警（巡回）を今年度は総会の決議により、全家庭参加にて、年末十二月より年初一月まで下記日程にて実施いたします。寒い中でありますがご協力お願い致します。

三、十二月十日（日）に町内一斉清掃と十二月十七日（日）自治会館清掃を実施いたします。

四、現在開発された団地三十六区画の世帯が、来年度には自治会に加入が予測されます。この機会に隣組の再編成を含めた対策が必要となってきます。

最後に皆様の声を自治会活動に反映したいと思っております。ありましたらご遠慮なく申し出下さい。

町内皆様様には来る新年のご多幸を衷心よりお祈り致します。

### 隣組別巡回日程表

隣組長を責任者として日程厳守下さい。出発は午後九時より。巡回コースは詳細地図に従って下さい。

隣組	巡回日	巡回員	巡回回数
一隣組	十二月一日	長 純三	三回
二	四日	須永勇治	三
三	七日	須永幸次	一
四	八日	中村トシ子	四
五	十二日	須永清	五
六	十七日	須永武雄	四
七	二十日	細堀 昭	二
八	二十三日	田島きくえ	四
九	二十六日	江泉隆昭	三
一〇	二十七日	安藤富美子	四
一一	二十九日	柳田 工	二
一二	三十一日	福地敏泰	三
一三	一日	須永勇吉	一
一四	四日	白石洋子	三
一五	七日	川上啓一	三
一六	十日	堀田 実	三
一七	十三日	湯沢 亨	二
一八	十六日	小林秀雄	二回
一九	十九日	三沢正子	二
二〇	二十二日	佐藤テル子	三
二一	二十五日	須永張真	三
二二	二十八日	木村祐里子	三
二三	三十一日	西巻 茂	三
二四	一月一日	広田 実	二
二五	四日	小泉幸一郎	三
二六	七日	田中茂美	三
二七	十日	青木光男	一
二八	十三日	須永一三	三
二九	十六日	三宅孝雄	三
三〇	十九日	木村正福	四
三一	二十三日	藤原勝巳	四
三二	二十六日	高橋 進	三
三三	二十九日	柴崎陽一	四
三四	一月一日	小倉彦三郎	二

# 防災訓練のお礼とお願

西新井町防災会 リーダー 早川 栄

十一月十九日(日曜日)町内皆様の協力を得て防災訓練が自治会館に於いて盛大に開催出来ました事を心から厚く御礼申し上げます。

当日は天候にも恵まれ関心の高さと相まって、子供十名を含め百三十五名の参加を頂き盛大に催すことが出来ました。

参加者皆さんを三班に分けて【初期消火訓練】【煙体験】【応急救護訓練】を交代で訓練を受けました。

【初期消火訓練】(消火器の取扱)先ず消防署職員より、消火器の取扱説明を事細かく受け、受け皿に可燃油を入れて火を付け、一人一人実際に消火器を使用して消火訓練に入りました。火の元を掃く用に消火器の粉末を撒くと教えられましたが、思ったように火の元に行かず、みんな真剣に訓練を受け、次第に上手になった次第です。又、油の火力の強さに驚いた人も多く、特に主婦の皆さんに、訓練の重要性を認識して下さった事と思っております。

【煙体験】テントを張りその周りをビニールで覆い、その中に無害煙を充填させての訓練、初めての人が多く入り口で煙の濃さで立ち往生してしまったり、中で前が見えないと大声を出す人もいました。煙体験をして本当に良かったという声を聞きましたが、実際の火災では、有害ガスで喉や目が痛くなり、呼吸困難になってしまいます。火災の恐ろしさを考えると、如何に火を出さない事が大切か、改めて痛感した事と思えます。

【応急救護訓練】(人工呼吸)救急車が現場に到着するまでの時間が、七分八分要します。この間の救急処置が救命の大きな鍵を握っており、その救命訓練です。消防署職員が説明者と実演者に別れて、手順と人工呼吸の方法を事細かく教授して下さいました。一人一人実際に人工呼吸を始めると、聞いているときは判ったつもりでも、手順の違いなどでこれでは、救命どころか殺してしまうと注意を受ける始末でした。一生懸命な職員の手を取りながらの教示で、何とか合格する事が出来るようになり、いざという時に役立てられると、全員が訓練の重要性を再認識しました。

【炊き出し訓練】婦人会の皆様が訓練の前から準備を始め、消防署の職員と一緒に、炊き出し器具を使って「とんじり」(ご飯)「炊き出しご飯でプラスチックの袋の中に米を入れ、醤油を入れ大釜で茹でる)婦人会の皆さんの愛情が入り豚汁の旨いこと、ご飯も普段と違った本当の炊き出しなので、なんだこれとは思いましたがこれが又旨い、熱々を訓練が終わって全員で頂きました。婦人会の皆さんには早朝より有り難う御座いました。

消防署職員の指導の元、無事に第一回の防災訓練が終了する事が出来ました。職員様よりの好評でも、お褒めの言葉を頂戴することが出来ました。ご参加ご協力に感謝申し上げます。是非参加下さいます様お願い致します。

## 煙 体 験



消 火 訓 練

## 炊 き 出 し 訓 練

